

公表

令和7年度 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達・子育て支援センター なかよしひろば		
○保護者評価実施期間	令和 7年 12月 22日	～	令和 8年 1月 19日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	69	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	令和 7年 12月 22日	～	令和 8年 1月 19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	令和 7年 12月 22日	～	令和 8年 1月 19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和 8年 2月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間での連携が良く、終礼や会議を通じて日常的に支援の振り返りと改善を行っている点	・職員間の連携を大切に支援体制づくり 終礼や会議、日々のやり取りを通じて、こどもの様子や支援内容について職員間でこまめに情報共有を行っている。 支援前後には必ず打合せや振り返りを行い、気づいた点や課題を共有することで、チームとして一貫性のある支援を行えるよう意識している。	・職員間の情報共有と支援の質の向上 終礼や会議、日々の振り返りを通じて支援内容や気づきを共有し、計画に基づいた一貫性のある支援を継続する。
2	保護者や訪問先施設に対し、丁寧な説明と情報共有を行い、信頼関係を大切にしている点	・保護者および訪問先施設との丁寧な関係づくり 保護者や訪問先施設の意向を大切に、支援計画の作成時や訪問支援後には、内容や支援のねらいについて丁寧に説明を行っている。 日常的にもアプリや電話等を活用して情報共有を行い、信頼関係を築きながら、共通理解のもとで支援が進められるよう努めている。	保護者・訪問先施設・関係機関との連携強化 担当者会議や日常的な情報共有を通じて、こどもの状況や支援方針を相互に確認し、共通理解のもとで支援を行う。
3	安全管理、虐待防止、非常時対応等について、組織的に取り組み、研修や訓練を継続している点	・安全管理・虐待防止を意識した組織的な取組 事故防止や非常時対応、虐待防止についてマニュアルを整備し、職員間での周知と研修、訓練を継続して実施している。 ヒヤリハット事例についても職員間で共有し、再発防止に向けた環境調整や支援方法の見直しを行うなど、安全に配慮した支援を常に意識している。	職員の専門性向上に向けた研修参加の継続 法人内外の研修への参加を継続し、発達支援や訪問支援に関する知識・技術の向上を図り、支援の充実につなげる。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フォーマルなアセスメントについて、統一したツールや手法が十分に整備されていない点	日々の行動観察や記録によるインフォーマルなアセスメントは行えているが、職員間で共通して使用できるフォーマルなアセスメントツールや手法が十分に整備されていない。	業務の中でも活用しやすい、簡易的で共通理解が得られるアセスメント方法について検討し、段階的な導入を進めていく。
2	忙しい業務の中で活用しやすいアセスメント方法が整っていない点	評価や記録の様式が統一されておらず、情報の整理や共有の方法にばらつきが生じている。	支援の振り返りや計画作成に活かしやすい共通様式の導入を検討し、職員間での情報共有をより円滑に行える体制を整える。
3	教具・教材の持ち込みや共有が十分に行えていない点	事前に情報収集や資料準備は行っているものの、教具・教材の必要性の整理や計画的な準備・共有の仕組みが確立されていない。	対象児童の特性や支援内容に応じて必要な教具・教材を整理し、事業所内で共有・活用できる体制づくりを進めていく。